令和 8 年 11 月 2 日
*茨城県病害虫防除所*

# 病害虫速報 No. 7

## イチゴでハダニ類の発生が多くなっています。
## 施設内をよく観察し、ハダニ類が発生している場合は、速やかに防除を実施してください。

ハダニ類（写真 1、2）は葉裏に多く寄生し、高温・乾燥条件により増殖が速まります。被害が進むと葉裏が褐変するほか、株のわい化や花房の発生が悪くなる等、収量に影響を及ぼします。ハダニ類は増殖が速いので、ルーペ等でイチゴの葉裏をよく観察し、早期発見・対策をとることが重要です。

**［現在の発生状況］**

10 月下旬現在、イチゴにおけるハダニ類の寄生葉率（本年値 30.9%、平年値 6.8%）、発生地点率（本年値 86%、平年値 41%）ともに平年より高い（図 1、2）。

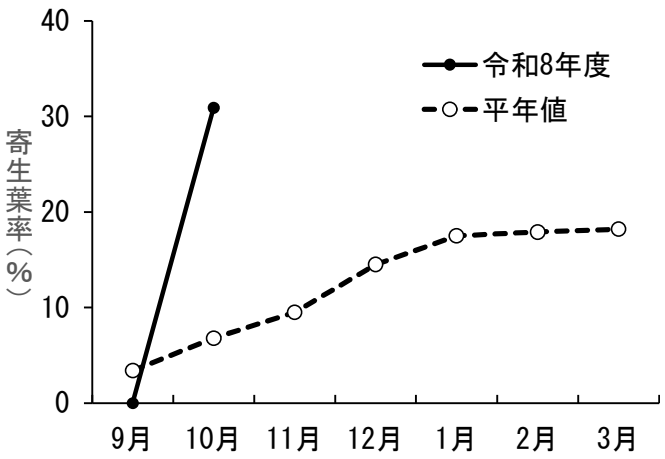



図 1　イチゴのハダニ類の寄生葉率の推移

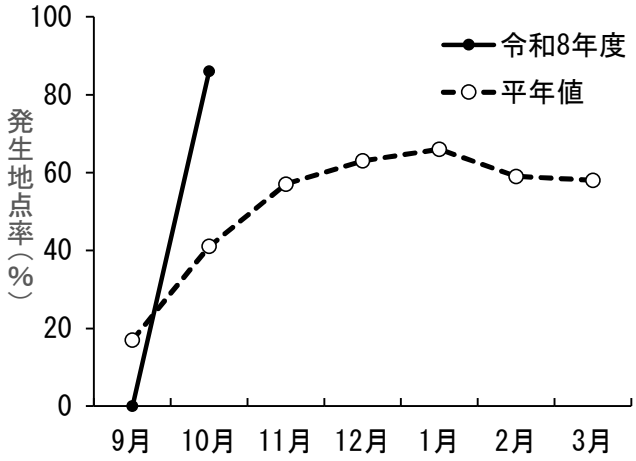



図 2　イチゴのハダニ類の発生地点率の推移

※9 月は未定植ほ場が多く、1 地点のみの数値

**［防除対策］**

① ハダニ類は増殖が速く、多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。

② 天敵を導入する場合は、ハダニ類の密度が高いと十分な防除効果が得られないため、薬剤防除等によりハダニ類の密度を減らした上で導入する。

③ 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、次ページの表を参考に IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。



写真１　ナミハダニ雌成虫(体長 0.6㎜位)



写真２　ナミハダニ幼虫(体長 0.2㎜位)

表　イチゴのハダニ類に登録がある主な散布剤　　(令和８年 10 月 21 日現在)

| IRAC コード[1)] | 薬剤名 | 希釈倍数 | 使用時期 | 本剤の使用回数 |
|---|---|---|---|---|
| 6 | コロマイト水和剤 | 2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| 13 | コテツフロアブル | 2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| 20B | カネマイトフロアブル | 1000～1500倍 | 収穫前日まで | 1回 |
| 20D | マイトコーネフロアブル | 1000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| 25A | スターマイトフロアブル | 2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| 33 | ダニオーテフロアブル[2)] | 2000倍 | 収穫前日まで | 2回以内 |
| － | サンヨール | 500倍 | 収穫前日まで | 6回以内 |
| － | 粘着くん液剤[3)] | 100倍 | 収穫前日まで | － |

1) 殺虫剤抵抗性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。
2) ダニオーテフロアブルは銅を含む製剤との混用及び近接散布で防除効果が低下するおそれがあるため、使用の際は次の事項に注意する。
・銅剤との混用を避ける。
・本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は 10 日以上散布間隔を空ける。
・銅剤を散布した後は本剤の使用を避ける。
3) 野菜類のハダニ類で登録。

**[注意事項]**

**・農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用基準や、注意事項を必ず確認のうえ使用する。**